

令和5年度 第2回 豊田市井郷地域会議 会議録

開催日時	令和5年5月17日（水）	開会	閉会	
		午後7時	午後8時25分	
会場	猿投コミュニティセンター2階 大会議室			
出席者	地域会議委員：20人			
	会長：加藤 勝	副会長：永江 榮司		
	委員：伊東 由岐雄	稲垣 一志	岩本 直雄	後田 澄夫
	大上 二三子	梶原 虎之介	加藤 俊治	加藤 真郎
	近藤 一也	澤田 章	新宮 敏雄	杉浦 基之
鈴木 登喜一	鈴木 幹三	高畑 春香	田中 功	
福岡 信明	宮地 俊久			
欠席者	0名			
傍聴者	0名			
事務局	猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、宮石担当長			
内容	1. 豊田市民の誓い（手話動画） 2. 会長あいさつ 3. わくわく事業現場確認 4. 「高齢者の社会参加の促進に関する取組」に関する諮問について ・地域包括支援センターからの説明 5. 新たな提言に向けた取組について 6. 事務連絡			

■ 議事（要約） ※当日の進行順で記載

4 「高齢者の社会参加の促進に関する取組」に関する諮問について

事務局から以下資料に基づいて説明

- ・昨年度の振り返り（資料3頁）
- ・提言、諮問答申の流れ（資料8頁）
- ・令和5年度のスケジュール（資料9頁）
- ・これまでの協議で出た意見等の集約（資料11頁～14頁）
- ・答申書案の提示（資料15頁）
- ・**豊田福寿園地域包括支援センター職員からの説明 石崎**
施設職員として考える課題について

- ① フレイル状態になる前の予防段階での支援が重要であるが、ひとり暮らし高齢者が社会参加したいと思っても最寄りの区民会館までも行く移動手段がない。
- ② 地域資源マップの活用などで必要な情報を提供する環境は整っているが、活かしきれていないと感じる。新型コロナの影響で外出する習慣が失われた結果、新しいことに取り組む意欲がなくなり、問題意識のなくなった人達をどうするかが問題である。人との交流がないことが常態化している人へのアプローチが重要。社会参

加の機会の情報を提供しても相談者のニーズに合わないこともある。

- ③高齢者クラブや自治区活動など既存の大きなグループ単位ではなく、もっと身近な個人単位のもっと小さな枠組みが必要だと感じている。社会参加を強制するものではないので、情報提供はするが無理強いはできない。家庭訪問の中で様子を見ながら行動を促している。包括への相談は日常生活に支障があってからになるが、その前の介護予防の段階でどういった支援ができるかが重要である。

(意見等)

高齢者クラブに入っている人には情報が届くが、入っていない人をどう引っ張っていくか何か取組があれば良い。井上自治区の高齢者クラブで毎月誕生会を開催しており、そういった機会を捉えて包括支援センターが地域に出向いて説明する機会を増やしてほしい。

3班に分けてグループワーク(30分)を行い諮問内容について協議、各班で回答シートを作成

5 新たな提言に向けた取組

資料17頁～19頁の提言書(案)について事務局から説明

提言「安全で安心して歩けるみちづくりの実施」における「(1)背景」と「(2)取組内容」について、回答シートに記入して5月29日までの提出を依頼

3 わくわく事業現場確認

訪問団体グループ分けの案について(資料1頁) →承認
グループで訪問日程を調整

6 事務連絡

井郷地域会議だより6月号、わくわく事業の概要及び年間活動計画を配付
11月に開催するフォーラム8・ラリージャパンについて周知

(次回の予定)

日時：令和5年6月21日(水) 午後7時から
場所：猿投コミュニティセンター2階 大会議室
内容：諮問答申の協議